

地域枠学生に 早期医療実習

岡山大医学部は、医師不足の地域に勤務する医師養成へ今年初めて設けた「地域枠コース」（定員5人）の学生を対象に、地域の医療機関での早期体験実習を始めた。早い段階で地域医療の意義を理解を深めてもらう狙い。地域枠は奨学金で勤務先を一時的に指定する制度だけに、将来にわたる医師の定着には、魅力ある教育をどう提供するかがかぎとなりそうだ。（阿部光希）



訪問診療で速部副院長（中央）の指導を受ける木浦さん

訪問診療や 会合も体験 担い手意識醸成

「脚のむくみの状態も見てもらうか」

今春地域枠で入学した木浦さんは8月末から同病院で実習。この日は訪問診療に同行し健康チェックや床ずれの治療を見守った。

9月初め、真庭市宮地の民家。金田病院（同市西原）の速部英昭副院長が脳出血の後遺症で寝たぎりの女性（88）を診察し、傍らの岡山大学医学部1年木浦賢彦さん（20）＝岡山市＝に話しかける。

計8日間の実習では、市内の病院関係者と警察、消防、市職員らが集まる場に出席し

スーム 地域枠 国の緊 関で9年間勤務すれば返還を免 急医師確保対策で 除する。9年間の継続事業。岡 大学の医学部定員が増えたこと 山大は来年度、県内枠の定員を に伴い全国各地で導入。岡山大 7人に増やすとともに、広島、 では県が毎月20万円の奨学金を 鳥取県など他県で勤務する枠 支給、卒業後に県指定の医療機 (5人)も設ける。

て地域連携の必要性をい手になる意識を高め学んだ。病院から1時 てもういたい」と狙い 間以上も離れた訪問診 を説明する。 療で難病やがんの患者 繊維会社を辞め、地 にも出会った。 域枠で入学した脳地一 生さん（33）は哲西町診 療所（新見市）に実習 受入れを依頼。医療 人）を上回るが、約9 割が県南部に集中。県 機関での実習は通常5 年生からだだが、許南浩 医学部長は「鉄は熱 圏域」で04年比11・5 %減、「高梁・新見圏 いうちに打て」で、早 %減、「高梁・新見圏 いうちに打て」で、早 %減、「高梁・新見圏

定着へ魅力ある教育かぎ

金田病院では救急患者 数が2013年で5割近く 増加。「医師不足の影響 で隣の津山市や新見市か ら患者が流れ込んでい る」（同病院）という。同 病院も常勤医師数が13人 から一時9人まで減った こともあり医師不足への 危機感は大い。「学生に 地域とのつながりの濃さ など、都市部とは違った 医療の魅力を伝えたい」と金田道弘院長は話す。

ただ地域枠の学生が医 師になるのは6年先。し かも、1人当たり6年間 で1440万円という奨 学金を返還すれば、指定 の勤務を免れることもで きる。

同大は6年間のカリキ ュラムで同様の実習や地 域の医師を招く授業な ど、地域枠に合った教育 内容を検討中。松川昭博 教務委員長は「行かせる のではなく、『行きたい』 という医師を増やすこと が大切。一般学生にも同 じ体験をする機会を設け たい」と話している。